

大学基準適合認定

本学では、財団法人大学基準協会の2007（平成19）年度の大学評価ならびに認証評価を受けた結果、同協会の大学基準に適合していると認定されました。認定期間は、2008（平成20）年4月から2015（平成27）年3月までで、社会に対して「大学の質」が保証されたことになります。

全ての大学は、教育研究などの状況について定期的（7年以内）に文部科学大臣の認証を受けた第三者評価機関（認証評価機関）から認証評価を受けることが義務付けられています（学校教育法第69条の三第2項）。本学においても昨年4月に自己点検・自己評価報告書、規程集、財務関係書類等を提出して書類評価を受け、さらに10月には同協会の視察団が本学を訪れ、施設設備の視察や意見交換、学生へのヒアリング等が行われました。

2007（平成19）年度は54大学が認定評価を申請し評価を受け、50大学が大学基準に適合していると認定されました。その中で何の改善勧告もなしで基準適合を受けた大学は37大学あり、本学もその一つでした。

今回の評価にあたり、同協会から本学の長所として特記された事項や、今後の大学発展への助言として次のとおり提言が付されています。



大学基準適合認定証

新潟工科大学 殿

貴大学は 平成19年度大学評価の結果 本協会の大学基準に適合していることを認定する

平成20年4月1日

財団法人 大学基準協会

会長 長田 豊臣

長所としてあげられた事項

- ・建学の理念の実現を目指し、実技系科目を多く取り入れるとともに、企業から講師を招聘する特別講演を正規科目とするなど、実践的技術力を兼ね備えた人材の育成を重視する教育内容を整備している。
- ・公開講座や小学生向け実験など、幅広く市民へ学習機会を提供していること、グラウンドの開放や各種イベント及び企業や高校へ施設提供等を積極的に行っていること。
- ・財務情報を刊行物やホームページに解説付きで公開し、大学に対する理解を促進するための姿勢を表していること。
- ・学生への教育支援を行うための助言教員制度の導入と少人数教育を活用したきめ細かな導入教育を実施していること。

助言

- ・授業アンケート結果を有効活用し、教育目標の達成度の検証や教育方法の改善に活用を促進すること。
- ・大学院の教育研究指導の方法の改善について組織的な支援体制を整備すること。
- ・大学院の国際交流を量的にも質的にも改善すること。
- ・編入学生の受入れを促進すること。
- ・電子ジャーナル等の電子媒体の導入により情報の即応をはかり、教育・研究における利用者の有効な活用に供すること。
- ・図書館は制限を設けず開放していることを広報し、学外者の利用促進を図ること。
- ・自己点検・評価結果を社会に向けてより積極的に広く公表すること。
- ・大学関係者からの情報公開請求に対する体制を整備すること。

CONTENTS

P1 大学基準適合認定

P2 大盛況! 第13回工科大祭

P3 日本機械学会フェロー賞受賞

どんGALA!祭りに協力

P4 “つくっ太郎”をよろしくお願ひします!

各種テレビ番組で本学が取り上げられました!

P5 卒業生の職場を訪ねて⑩

卒業設計コンクールで金賞を受賞

P6 合同会社説明会

第14回工学部・第10回大学院工学研究科入学式

福利厚生棟・講義棟竣工式を挙行

P7 環境シンポジウム

教員表彰

お知らせ

P8 新任教員紹介

編集後記

大盛況! 第13回工科大祭

今年で13回目を迎えた「工科大祭」が6月7日(土)に行われ、学内で同時開催された「青少年のための科学の祭典 柏崎刈羽大会」、「オープンキャンパス」と合わせて2,100人の人出で賑わいました。福利厚生棟、講義棟完成後初めてとなる今回の「工科大祭」では、福利厚生棟の開放スペースで軽音楽部やプラスバンドのライブを行ったほか、地元柏崎の「祭や倶楽部」が、よさこい鳴子踊りを披露するなど、これまでとは一味違った演出が目を見ました。



また、毎年多くの観客が訪れる芸能人ライブは、ここ数年恒例となっていた「お笑い系」ではなく、女性に大人気の俳優の沢村一樹さんを迎えてのトークショーを行い、約500人が講堂を埋めつくしました。



このほか、各学科の研究成果や作品が展示され、機械制御システム工学科はレスキューロボットや海上ロボットの展示・実演、建築学科は1年生が製作した椅子と2年生によるカフェや2世帯住宅の設計製図を公開しました。一方、情報電子工学科と環境科学科(物質生物システム工学科)は、科学の祭典にそれぞれブースを設け、学生が子どもたちに実験をレクチャーするなど、それぞれの特徴をアピールしました。



工科大祭と並行して行われたスポーツ大会(3on3)には9チームが参加し、熱い戦いが繰り広げられました。決勝では建築学科4年生と大学院生の合同チーム「ちーむばちすた」が、機械制御システム工学科3年生による「NTJC」を20対12で下し栄冠を勝ち取りました。



左から2番目が間嶋さん

【工科大祭実行委員長コメント】 工科大祭実行委員長 間嶋 勇輔

(物質生物システム工学科3年・
新潟県立長岡工業高等学校出身)

今年の工科大祭は、多くのお客様に来ていただき、とても嬉しく思っています。沢村一樹さんを迎えてトークショーや、どんGALA!祭りオフィシャルチーム「祭や倶楽部」さんによるよさこい鳴子踊りをしていただき、例年以上に盛り上がる事ができました。来年も今年以上に盛り上がっていいと思います。

最後に、工科大祭が無事にできたのは実行委員のメンバーや先生方、地域の皆様方の協力があったからこそだと思います。ご協力くださった皆様には心から感謝申し上げます。
[関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2008/20080607_01.html]

日本機械学会フェロー賞受賞

3月8日(土)に大学院高度生産システム工学専攻2年の金田剛宏さん(機械制御システム工学科中嶋研究室、現在、新潟県新発田市の(株)磯部ハイテック勤務)が、福井工業大学で開催された日本機械学会北陸信越支部講演会で発表した講演「溶接ビード研削のためのロボットシステム」に対し、日本機械学会フェロー賞を受賞しました。

この賞は、日本機械学会地方講演会における若手優秀講演に対して贈られるもので、今回の講演会では200件を超える講演の中から5件が選ばれています。

大学院高度生産システム工学専攻修了後の5月に賞状とメダルが贈呈されました。

[関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2008/20080528_02.html]



▲左が指導教員の中嶋教授、右が金田さん

どんGALA!祭りに協力

7月19日(土)、20日(日)に柏崎市の商店街を中心に5つの会場で第9回どんGALA!祭りが開催されました。

この実行委員会に建築学科田口研究室4年の水戸部智さん(長野県立中野実業高等学校出身)と矢川可南さん(新潟県立新発田南高等学校出身)が参加しました。広報を担当し、ポスター、マップ、バッジ、ステッカー等のデザインやチームの演舞順抽選会の企画運営にいたるまで行い、実行委員会の中心として活躍しました。

「4月から7月までの3ヶ月間で、何度もミーティングを重ねながら準備をしてきましたが、デザインの難しさを痛感しました」と、二人。

ポスターデザインでは、依頼側の考えを考慮しながらデザインする事の難しさを感じたそうです。特にマップづくりでは限られた予算の中で表現することの難しさ、おもしろさを感じたそうです。

「人間としても成長できたと思っています。人の意見を聞く事って大切なんだなあ」と、水戸部さん。



▲左が矢川さん、右が水戸部さん



“つくっ太郎”をよろしくお願いします！

「NIIT広報VOL.14」でも紹介しましたNIITのマスコットキャラクターの愛称が“つくっ太郎”に決定しました。

愛称は学内およびウェブ上で募集し、70件を超える応募の中、在学生の保護者で柏崎市の猪俣裕子さんの考えた愛称に決定しました。猪俣さんからは、「ものづくりに関係ある愛称をと思って考えました。実際に選ばれて、大変嬉しく思っています。」とコメントをいただきました。

NIITの基本理念である「ものづくり」をイメージさせる、本

学に対応しい愛称のニューフェイス“つくっ太郎”をよろしくお願いします。

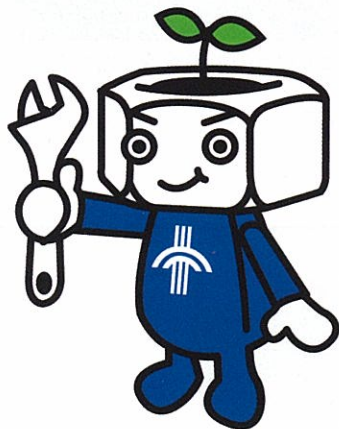
そして…“つくっ太郎”グッズも作っちゃいました…。

関連URL

http://www.niit.ac.jp/topics/2007/20080109_01.html

http://www.niit.ac.jp/topics/2007/20080201_01.html

http://www.niit.ac.jp/topics/2007/20080215_01.html



▲デザイン：星野雄太郎さん（新潟市）



各種テレビ番組で本学が取り上げられました！

4月25日（金）にテレビ新潟（TeNY）の「TeNY夕方ワイド新潟一番」にて、本学から生中継で学生生活や研究施設が紹介されました。

また、6月25日（水）には、新潟総合テレビ（NST）の「NSTくらしの情報」にて、環境科学科の福崎紀夫教授が出演し、7月13日（日）に開催した本学主催の環境シンポジウムの告知を行いました。

そして、8月31日（日）に放送されるNHK衛星第2の「あなたとエアロビック」（午前7時40分～午前8時4分）の収録が6月30日（月）に本学で行われました。学生、教職員が元気にエアロビクスをしている様子のほか、学生のインタビューや本学の紹介が放送されます。ぜひご覧ください。

【関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2008/20080707_01.html】



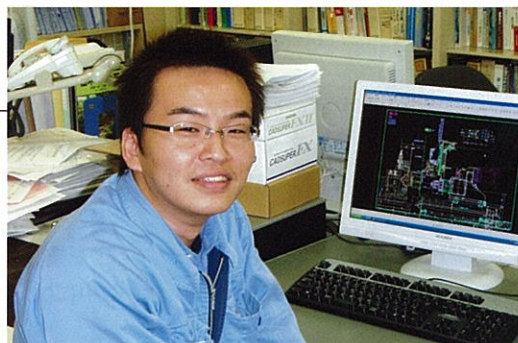
卒業生の職場を訪ねて⑫

株式会社 ニイガタ・マシナリー・サービス

小嶋 正太さん

機械制御システム工学科
2003年3月卒業

株式会社 ニイガタ・マシナリー・サービス
<http://www.niigata-ms.com/>



今回は新潟市にある株式会社ニイガタ・マシナリー・サービスに勤めている小嶋正太さんを訪ねてみました。

聞き手：こんにちは、お久しぶりです！元気そうですね！

小嶋さん：はい、お陰様で元気に頑張っています。でも、“久しぶり”ではないですよ！この前、デパートで遇いましたよね！

聞き手：そう言えば…(笑) ところで、今はどんな仕事を担当しているんですか？

小嶋さん：はい。今は設計を担当しているので、設計仕様書と“にらめっこ”しながら、毎日CADと格闘しています。

聞き手：設計と言っても対象は様々ですが、具体的には何を設計しているのでしょうか？また、日々の仕事の中で面白いと思ったことや、やり甲斐などを聞かせてください。

小嶋さん：最近取り組んでいるのは加工や組み立てなどに用いる専用機械の設計です。これが、なかなか難しいんですよ！機械を設計すると言うことは、機械全体の形状は勿論、各部分や部品の形状や寸法、使用する材料や材質なども決定する必要があります。ここで、安全性と強度を考えるのが難しいですね。

聞き手：確かに、安全性は最重要ですからね！それと深く関係する強度計算などは本当に大切ですよ。

小嶋さん：60歳位のベテラン設計者になると経験で概ねのスペックを決められるのですが、私にはまだの様です。スピンドルの強度計算などを

行っていると頭が痛くなってきます。もっと、大学で勉強しておくべきだったと思いますよねえ…(笑)

聞き手：それは、私も一緒です。大学時代と比べてみると、お給料を頂く様になってからの方が本気で勉強した感じがします…(苦笑)

小嶋さん：それから「やり甲斐」ですが、自分が設計した機械が製品になると最高に気持ちが良いですね。ついつい嬉しくて、記念に写真を撮ってしまいます。

聞き手：ところで、プライベートな話題になりますが、ご結婚おめでとうございます。また、立派な結婚式にお招きいただきまして有り難うございました。

小嶋さん：最近、娘も生まれたので、すごく賑やかになりました。子供の布団を敷いたり、片付けたりするのも日課です。

聞き手：それで、生き活きとした“良い笑顔”なんですね！

小嶋さん：仕事もやり甲斐がありますし、職場の皆さんにも良くしていただいています。家族にも恵まれて、最高ですよ！！

(聞き手：機械制御システム工学科
准教授 寺島正二郎)



卒業設計コンクールで金賞を受賞

5月18日(日)に新潟市市民会館にて開催された「JIA県内四大学合同卒業設計コンクール」(本学、新潟大学、長岡造形大学、新潟職業能力短期大学校が参加)にて、2007年度の卒業生、清水靖子さん(建築学科飯野研究室卒業、現在、

新潟県長岡市の(株)高田建築事務所勤務)が金賞(第1位)を受賞しました。

[関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2008/20080520_01.html]

環境シンポジウム

7月13日(日)に環境科学科開設記念事業として、新潟市のチサンホテル&コンファレンスセンター新潟を会場に環境シンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは「地域の環境活動を通して『みんなの地球と私たちの未来』を考えよう」と題して、有識者4人による基調講演とパネルディスカッションを行い、約400人の方に参加いただきました。

基調講演の演題は以下のとおりです。

○地球温暖化とその対策

新潟日報社 論説委員 山田 孝夫 氏

○新潟県の大気環境を考える

新潟工科大学環境科学科 教授 福崎 紀夫

○もったいないプロジェクト

新潟県立高田農業高等学校 教諭 原 正博 氏

○環境との調和を目指して

新潟富士ゼロックス製造株式会社

環境管理マネージャー 本間 雅人 氏

〔関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2008/20080718_01.html〕



教員表彰

機械制御システム工学科の山崎泰広准教授が、日本溶射協会で論文賞を受賞しました。受賞論文名は、「大気プラズマ溶射遮熱コーティングの機械的特性に及ぼす溶射条件と高温暴露の影響」でした。

なお、共著者の一人、杵渕稔夫さんは本学大学院の修了生(現在、新潟県阿賀野市のTHK新潟(株)勤務)です。

〔関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2008/20080619_02.html〕



▲左：山崎准教授、右：杵渕さん

お知らせ

●オープンキャンパス

日時：8月10日(日)、9月28日(日) 10:30～15:30
内容：模擬実験、キャンパス見学ツアー、在学生との交流、大学・学科紹介、入試説明・相談、学食無料開放など

申込：電話・FAX・メール・インターネットにより、開催日の2日前までにお申し込みください。

〒945-1195 新潟県柏崎市藤橋1719

☎ 0120-8188-40 FAX 0257-22-8226

URL <http://www.niit.ac.jp/>

E-mail nyuushi@adm.niit.ac.jp

送迎バス：新潟、長岡、直江津、柏崎の各駅から無料送迎バスを運行します。8月10日(日)は高崎、長野からも運行します。

〔関連URL

http://www.niit.ac.jp/entrance/opencampus/2008/opencampus_2008.html〕

●入試情報

AO入試

エントリー：7/22(火)～8/15(金)

面談：8/25(月)又は8/26(火)

出願：9/8(月)～9/17(水)

合格発表：9/26(金)

※エントリー、面談までは無料です。

〔関連URL

http://www.niit.ac.jp/entrance/entrance_index.html〕

新任教員紹介



環境科学科 教授
福崎 紀夫 『工学博士』

- 専門：大気環境化学
- 研究テーマ：光化学オキシダント等の大気汚染物質の動態解明、大気中酸性成分の湿性・乾性沈着研究、大気中水銀の形態別動態解明
- 経歴：山形大学卒、新潟大学大学院修士課程修了、新潟県保健環境科学研究所大気科学科長、(財)日本環境衛生センター・酸性雨研究センター（東アジア酸性雨モニタリングネットワークセンター）大気圏研究部長、新潟県保健環境科学研究所調査研究室長
- 趣味：ソフトボール審判、山歩き、球技
- コメント：東アジア諸国は近年経済発展が著しく、大気汚染物質排出量も増加しており、我が国、特に日本海側地域は大陸に面し影響が大きいとされ、その実態解明と国際的対応が緊急課題となっています。日本海に面する新潟県は有害化学物質や酸性雨、光化学オキシダントの越境大気汚染研究に適した場所にあり、特に柏崎市は佐渡島の影響を受けにくい地理的条件にあることから、将来の日本を支える学生諸君と、当地でこれらについて一緒に研究を進め、我が国を含め東アジア諸国の環境保全活動に役立てたいと考えています。



環境科学科 教授
藤木 一浩 『学術博士』

- 専門：グリーンケミストリ
- 研究テーマ：環境負荷の低減を目的とした機能性高分子材料の合成プロセスに関する研究、廃プラスチックとナノ材料による新規複合材料の合成
- 経歴：新潟大学卒、同大学院博士課程修了、花王株式会社和歌山研究所、上越教育大学学校教育学部助手、同大学院学校教育研究科准教授、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科博士課程准教授
- 趣味：オーディオ（特にスピーカーシステム等の自作）、自動車（合法的な車いじり）、モータースポーツ（昔は参戦していましたが、現在は観戦のみ）、ドライブ
- コメント：私はこれまで、主に高分子材料の合成に関する研究に携わってきましたが、高分子材料の廃棄物が焼却や埋め立て処理されてきた現状を顧みると、環境汚染に少なからず加担していた責任を感じずにはいられません。そこで、これからは、環境にやさしいものづくりの方法や、ゴミとなる廃プラスチックと最新の素材とを組み合わせ、新しい機能性材料の合成や、その処理方法に関する研究を展開していきたいと考えています。



情報電子工学科 准教授
今田 剛 『博士(工学)』

- 専門：パルス電力工学、レーザー工学
- 研究テーマ：パルス電力応用、プラズマ応用及びレーザー開発に関する研究
- 経歴：長岡技術科学大学卒、同大学院博士課程修了、長岡技術科学大学助手、米国ローレンス・リバモア国立研究所訪問研究員、長岡技術科学大学助教
- 趣味：旅行、韓流ドラマ、スキー、温泉
- コメント：専門のパルス電力工学は、時間をかけてじっくりと電気エネルギーを充電し、それを瞬間的に放電することにより、莫大な電力を得る技術です。高出力レーザー、有害物処理、大電力パルス粒子ビーム、加速器などに応用されています。パルス電力工学になぞらえば、学生の間は充電（勉学）期間で、学生の皆さんが社会に出た後は放電（活用・応用）期間です。学生の皆さんが社会に出て莫大な力を発揮できるよう、じっくりと教育研究指導を行って参りたいと思います。よろしくお願いいたします。



教養系 准教授
峯島 道夫 『教育学士』

- 専門：TEFL/TESL
- 研究テーマ：Discourse analysis
- 経歴：新潟大学卒、新潟県内高等学校教諭、パーミンガム大学（英国）修士課程在籍
- 趣味：読書、水泳、ジョギング、バドミントン、温泉、地ビール
- コメント：柏崎は二十数年前に青春時代の4年間を過ごした懐かしい街です。先輩の先生によく海に釣りに連れて行っていただきました。ご縁があって戻ってまいりました。昔お世話になった先生方がたくさん住んでいらっしゃいます。大学のために地域のために微力ではありますが貢献することができればと思っています。よろしくお願いいたします。

編集後記

4月に待望の新棟「福利厚生棟・講義棟」が竣工いたしました。この建物は本学学生によるコンペのアイデアを基につくられたものです。大きく広がった食堂の大空間で談笑したり、レポートを書いたりしている学生の姿を見ると、空間が創り出す新しい可能性を感じずには居られません。さらに、去年は大学基準協会による認証も頂き、本学も新しいステップに突入したといえます。地震による被害を学生共々乗り越えて、工科大にも新しい歴史ができていますのだから、と広報誌を読み返す度に思います。(T.T.)

発行

新潟工科大学広報誌 第15号
平成20年8月5日
新潟工科大学広報委員会

新潟工科大学

〒945-1195 新潟県柏崎市藤橋1719番地
TEL.0257-22-8111（代表）
FAX.0257-22-8112
E-mail:soumu@adm.niit.ac.jp
URL:http://www.niit.ac.jp/